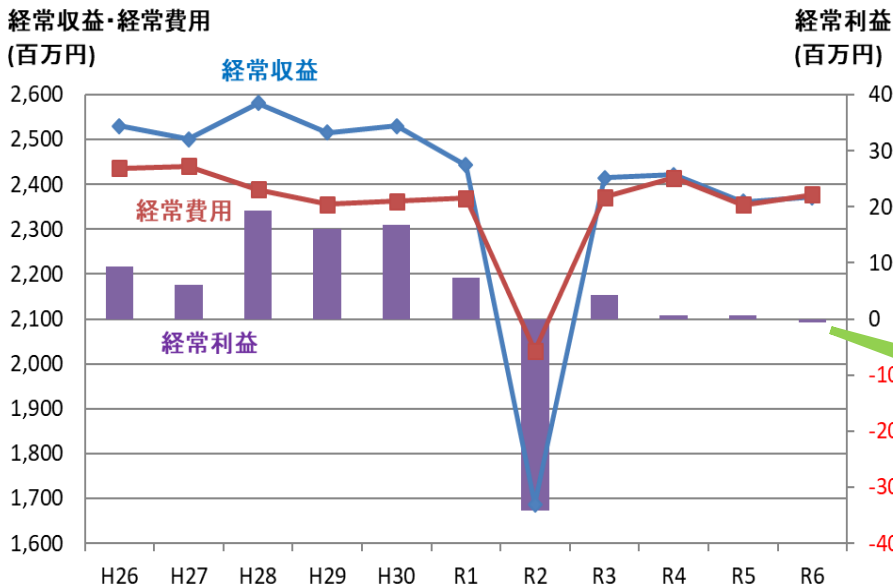
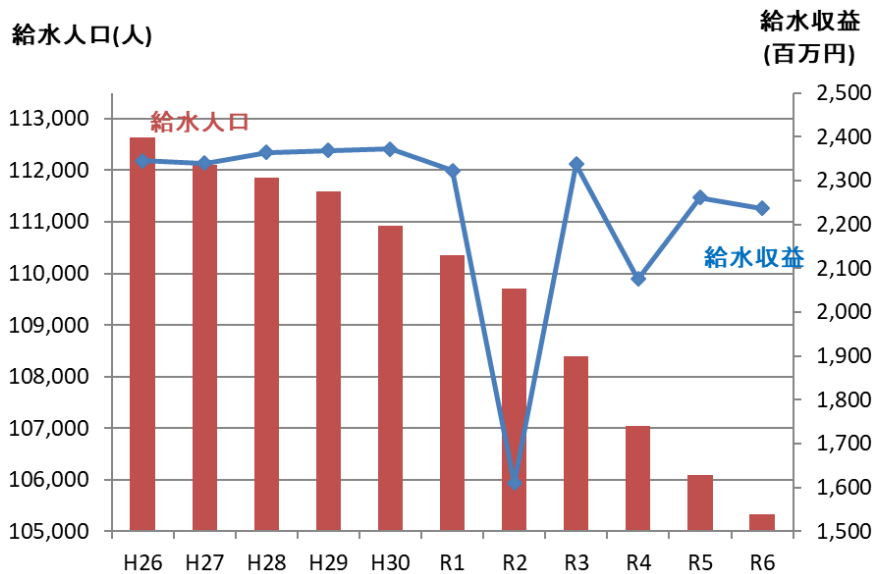


8. 水道事業について

経営の現状

これまで、人口増に伴い増え続ける水需要に対処するため、施設能力の増強を進めてきましたが、近年では節水意識の浸透や節水機器の普及、人口増の停滞などの影響もあり、水需要は減少傾向にあります。それに伴い、給水収益も減少しています。



一方で、老朽化施設の更新、施設の耐震化、浄水処理施設の高度化、施設の安全対策などの費用は増加傾向であり、今後の経営状況はますます厳しくなることが予想されます。

比較のため、長期前受け金戻入(非現金収入)を除いています。

今後の財政見通し(更新費用)

令和6年度を開始年度とする「第2次三田市水道ビジョン」では、過去のニュータウン開発時期に整備した水道施設が一齐に更新時期を迎えると想定され、今後、急激な費用増が見込まれています。水道ビジョンでは構築物・設備の投資費用を平準化しつつ、水需要減少に伴うダウンサイジング(口径縮小)を考慮した投資計画の見通しとして、令和6(2024)年度から令和15(2033)年度の総事業費は74億円(税抜)を見通しています。引き続き、水道施設や管路の更新・耐震化は、重要度や優先度を踏まえて事業を進めていきます。

物価高騰等により更新費用の増大が予想されることから、計画的な更新・耐震化が必要となります。



水道事業の会計

三田市水道事業では、お客さまにおいしい水を使っていただくために、施設の維持管理、水質管理、配水管の更新などの様々な業務を行っています。

水道事業の経営は「独立採算制」を原則とし、皆さまが支払われた水道料金収入で、水道事業にかかわる費用（人件費、薬品代など）や維持管理費用（施設の修繕費など）等の経費のほとんどを賄っています。大切な水道料金が活かされるように、業務の効率化に努め、経営基盤の強化を図っていきます。

